

要 望 書

都市の道路は、市民生活や経済活動を支える最も根幹となる施設である。昨年4月に、国道357号横浜ベイブリッジ区間が開通し本牧ふ頭と大黒ふ頭の連絡が強化され、都心を通過せざるを得なかった港湾関連交通が横浜港上空を直接通行できるようになった。

また、昨年12月に首都高湾岸線本牧ジャンクション、本年3月には環状2号線屏風ヶ浦バイパスも供用されるなど、臨海部道路網の整備は、横浜市内の物流交通の効率化、横浜都心部の渋滞緩和、環境の改善などに大きく貢献することが立証された。

なお国道357号は、想定を上回る通行量により、既に混雑が見られるところである。今後とも、横浜港がその国際競争力を高め、東アジアにおける中枢的港湾として発展していくためには、港湾物流を円滑かつ的確に対応できる道路網の構築が不可欠と考える。

そこで国等においては、次の事項について取り組まれることを強く要請する。

- 一、本牧ふ頭の再編整備の進捗にあわせ、国道357号（ベイブリッジ区間）へ接続する臨港道路整備など臨海部道路網の一層の充実を図ること。

平成十七年七月十九日

横浜市幹線道路網建設促進協議会

会長 高梨 昌 芳

